



大学女性協会の活動



大学女性協会は、一般社団法人として、国際大学女性連盟と協働しながら女性の地位向上を目指した公益活動を行っている実績のある NGO です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する提言活動など多様な事業を展開しています。

事業のひとつに、毎年行われている「国際女性デー」に因んだ企画があります。今年は、2月24日(月・祝)「性暴力と闘う医師“世界はつながっている。無関心は許されない” ノーベル平和賞受賞者 ムクウェゲ医師の事例から考える」を開催し、NHK 番組 ノーベル平和賞受賞者デニ・ムクウェゲ医師へのインタビュー DVD 鑑賞後、自分たちにできることについて、意見交換を行いました。

*JAUW として国際女性デー (3/8) に、ウェブにて本催しの記事を発信しました。

3月8日は国際女性デー



1904年3月8日にアメリカ・ニューヨークで婦人参政権を求めたデモが起源となり、1910年のコペンハーゲンでの国際社会主義会議にて、「女性の政治的自由と平等のために戦う日」と提唱したことから始まりました。その後、国連は1975年の国際婦人年において、3月8日を「国際女性デー」と制定。

イタリアの「ミモザの日」は有名で、男性が感謝を込めて、母親や妻、会社の同僚に愛や幸福の象徴でもあるミモザを贈ります。女性達は家事や育児から解放され、つかの間の自由を楽しんでいます。日本でも、「国際女性デー | HAPPY WOMAN FESTA」が2017年から展開され、2025年までに47都道府県での開催を目標に全国に拡大しています。

訃報 (敬称略)

大石 温子 (平30・8・1)

越村 とく糸 (H30・12・28)

川井 洋子 (令1・5・28)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます



【静岡支部通常総会】 【全国大会】

2020年4月26日(日)
総会：11時～
親睦昼食会：12時～
会場：あざれあ
生活関連実習室

2020年5月23日・24日
会場：名古屋市
*詳細は後日、
ご連絡いたします。

【会員募集について】

お亡くなりになった方や体調不良などで、中々思うように活動できない会員が増えてきております。このままでは、支部活動が懸念される状態です。この際、会員拡大を行いたいと思っております。

是非、会員の皆様の積極的な、『会員入会お誘い』のお声掛けをお願いいたします。



編集後記

本当に今年の、暖冬には驚くばかりです。又、新型コロナウイルス感染症の世界中での拡大。豪華客船で、余暇を楽しんでいたはずなのに、こんな状態になるとは、どなたも想像しなかったことだと思います。真に、何が起きるかわからない世の中。自助努力では防げないことのなんと多い事でしょうか。

どうぞ皆様、健康でお過ごしください。今後も支部活動にご協力ください。

編集担当 佐藤 成子



2020年3月発行

一般社団法人

News Letter

ニュースレター

大学女性協会静岡支部

発行責任者／支部長 山下いづみ



支部長挨拶

今年は55年ぶりの東京オリンピックイヤーとなりました。皆様はどのように過ごされるのでしょうか。

日本では、2019年4月には新在留資格が創設され(外国人材の受け入れを拡大する改正出入国管理法)、家族同伴の外国籍労働者の増加が想定されています。そして、2019年7月に日本語教育推進法が成立し、国や自治体には日本語教育を進める責務、企業には雇用する外国人に教育機会を提供するよう努める責務ができました。

静岡支部は法律が整う前から、多文化共生事業に力を入れてきており、今回の日本の動きを大変嬉しく思います。静岡支部の活動を振り返りますと、2008年：外国人が暮らしやすいまちとは多文化共生～家庭・職場・学校・地域からの取り組みから～。2010～2011年：多文化共生活動助成・研究奨励事業「浜松外国人医療援助会、NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会、NPO法人ONES、リトルワールドキャンプ実行委員会」。2011年：教育を受ける権利の保障～教育現場からはじき出される外国人の子どもたち～。2012年：多文化共生と日本語教育。2013年：今、外国人は困っている～外国人の悩みに耳を傾ける活動をとおして感じてきたこと～。他2回、神奈川支部と協働セミナーを開催しました。

そして、去年は、静岡支部会員の勝又幸子さんを委員長に「外国にルーツのある住民と多文化共生の取組についての調査～保護者と子どもの教育問題をめぐって～」の全国調査が行われました。報告を楽しみにしててください。

今年、静岡支部では、「女性のキャリアアップ」について、当事者の話をきく懇話会を予定しております。これからますます女性に光があたり、皆が幸せに包まれる令和の時代になるよう、支部活動をして参りましょう。

皆様にとりまして、素晴らしい1年となりますように。

静岡支部長 山下 いづみ

本部事業・第1事業 調査・研究

勝又 幸子

調査・研究委員会 全国調査「外国にルーツのある住民と多文化共生の取組についての調査～保護者と子どもの教育問題をめぐって～」に、静岡支部として協力しました。3市（富士市、静岡市、浜松市）の担当に事前連絡して約束をとりつけ、訪問調査を実施。結果は本部に報告済みです。

■2019年7月25日（木）13：30～14：30 調査実施：勝又幸子・山下いづみ

富士市 市民部多文化・男女共同参画課 国際交流室 課長 増田晴美 室長 吉野正敏

富士市教育委員会 学校教育課 藤沢いづみ

■2019年8月21日（水）11：00～11：40 調査実施：勝又幸子

浜松市 教育委員会 学校教育課 指導課 教育総合支援センター

主幹 外国人支援グループ長 櫻井敬子 担当課長 石川 博則

■2019年8月21日（水）13：00～13：30 調査実施：勝又幸子

静岡市教育委員会事務局教育局 学校教育課

主幹兼教育課程係長 野田修 同指導主事 玉井晶

質問は外国にルーツのある住民の保護者と子のうち、日本語の理解に支障があると思われる人を対象として中学校における進路説明会や相談に、何らかの配慮をしているか。3市とも、日本人とは別に日本語の支援が必要な保護者と子どもに対してガイダンスを実施。通訳が必要な場合は通訳を派遣する事業を行っていました。



静岡支部 2019 年度の調査・研究

鍋倉 伸子

支部では、女性たちのキャリアアップ調査を昨年11月から12月にかけて実施しました。2015年支部で開催した「女性の自立」シンポジウムでの鷲見会長の基調講演でも、国の202030目標（2020年までに各分野における指導的地位に占める女性の割合を30%にする）について言及されましたが、2019ジェンダーギャップ指数は153カ国中121位という世界経済フォーラム最新の報告を見ると、2020となる今年の達成は難しい様相です。

その中で現在キャリアアップを達成して、仕事に励んでいる市役所・県庁・病院・会社等の管理職の女性8名に聞き取り調査を行いました。役員の知っている人を中心に人選を進めましたが、なかなか対象者が見つからず、公務員が多くなったというのが実情です。

調査は個々のプロフィール、個人として、システムとして何が課題であったか、今後何が必要かを尋ねました。私は2名の方に、先に質問票を送付し、その回答を踏まえて、実際にお目にかかって質問を掘り下げて聞くという方法で回答を得ました。現在8名分のまとめの作業に取り掛かっています。職種も違い、置かれた環境も違って、共通点をどれだけ見出せるかといったところですが、それぞれのキャリアを振り返る興味深い内容であると感じています。

ささやかなまとめであっても、役員で内容を検討し、本部・他支部に提出して、今後会全体で取り組むことができればと考えています。



県立大学リトルワールドキャンプと大学女性協会

林 幸子

大学女性協会静岡支部が県立大学リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）と関わるようになって10年近くになります。

静岡県には様々な国の文化を持った人たちが住みますが、日常生活ではその文化に接する機会は余りありません。子ども達が異文化に興味を持って理解に繋げる場を作りたいという思いから、リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）は始まりました。この学生達の活動指針に私達大学女性協会も共感する所があり、支援することになりました。

令和元年の第16回リトルワールドキャンプは、8月11日から13日まで「富士市立少年自然の家丸火青少年の家」で開催されました。子ども達の参加者は（日本の子ども21名、富士、浜松のブラジル人学校などから外国と繋がりのある子ども22名）43名と過去最大となりました。又、学生スタッフ44名、高校生ボランティア6名、通訳2名、顧問1名

の合計53名の方達が支えて実施されました。静岡支部からの参加者は3名でした。

キャンプに参加した経験が、子ども達にとって良い思い出として残り、異文化に対する理解を育むきっかけになればと思います。私達は初日の「はじめましての会と運動会」を見学しましたが、これからも多文化共生の為に頑張る若者達を応援したいと思います。

